

参政権と選挙権

憲法第15条【選挙権、公務員の本質】「①公務員を選定し、及びこれを罷免することは、国民固有の権利である」②すべて公務員は、全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない

「公権力の行使のあり方を決定する過程に参加する権利を参政権というが、そのうち、最も重要な権利が、憲法15条1項により国民に保障される選挙権である」(駒村圭吾編『プレスステップ憲法(第4版)』弘文堂、21頁)。

同条に記載されている「公務員」には、本稿で取り上げる国会議員も含まれています。

「1票の格差」問題

7月には参议院選挙がおこなわれますが、選挙の度に話題になるのが「1票の格差問題」です。今日では、「1人1票の原則」から「1票の価値の平等」も憲法上の要請と理解されています。

格差に関して、最高裁は、「原則として、国会が正当に考慮することのできる他の政策的目的ないしは理由との関連において調和的に実現されるべきもの」として、人口比以外の政策的、技術的要素(例えば、都道府県、従来の選挙の実績、

面積割議員定数を考えると…衆議院比例代表定数の比較

Table with 3 columns: ブロック, 定数(2023年), 面積割定数(試算). Rows include 北海道, 東北, 北関東, 東京, 南関東, 北陸信越, 東海, 近畿, 中国, 四国, 九州.

注:四捨五入により、面積割合計は175人。

選挙区としてのまとまり具合、市町村その他の行政区画、面積の大小、人口密度などを考慮することを容認してきました。しかし近年は、衆議院では2・13倍を、参議院では4・77倍を違憲状態と判断しています。(前

〈4〉農家の参政権を考える

掲書25・26頁)

地域資源の代弁者は誰だ

「1票の格差」が話題に上るとき、必ず思い出すのが、「自分たちは、仕事や家庭生活だけではなく、この村の田畑、里山、河川を守り、利用しながら生きている。恵の源でもある地域資源のこれからを考える時、その声なき声を国政の場に届ける人が必要なんだ。人間のこと大切だけど、地域資源の声の代弁者が必要なんだ。居住する有権者の頭数だけで議員の

面積割議員の定数を考える

そこで、2023年時点の衆議院比例代表176人のブロックごとの定数と、各ブロックの面積割合での定数配分を比較した表を示しています(右表)。

強の61人。東海も近畿も同じ傾向。あきらかに大都市圏に偏った議員構成を是認する定数配分と言わざるを得ません。これに、首都圏育ちで選挙の時だけ地方出身者の顔をする二世、三世議員が加わる訳です。これでは、地域資源の声は国政に反映されません。そのことが、第1次産業の衰退を加速させることとは間違いありません。地域資源の参政権を保障するために、冒頭に上げた憲法第15条の②は、すべて公務員が、「全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない」と謳っています。国会議員は、この国の「一部」の国民と国土の奉仕者ではなく、全国民と国土全体への奉仕者であるべき存在です。だとすれば、農業をはじめとする第1次産業従事者が減つても、選挙権なき地域資源の参政権を少しでも保障するために、それらが発する叫びに耳をそばだてる代弁者たちの数を減らすべきではありません。

こまつやすのぶ「一般社団法人長野県農協地域開発機構研究部長。著書に『新訂版 非敗の思想と農ある世界』(大学教育出版)『農ある世界と地方の眼力177』(大学教育出版)『隠れ共産党宣言』(新日本出版社)など。

ホットライン

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

青森



ゲストは元会員▲青森

青森 絵手紙小組で選挙・タイム 【原本部 門倉恵理奈奈】今年、約10年ぶりに再開した三沢準備支部の「絵手紙小組」。月2回定例で開いてきました。6月13日、県本部から2人で訪問、ゲスト1人と会員5人(支部の半分)が集まりました。ゲストは最近夫をなくし、「暇だから」ときてくれましたが、何と元会員。以前活発に絵手紙をしていた遊絵夢(ゆえむ)班の名づけ親でした。三沢基地があるため「以前は静かな地域だったが早朝から夜まで騒音がひどい」「出発地だから朝、風夜がうるさい」「騒音被害は線引きできなくてこじゃんち仲間を増やすがよ!」「軍事費削って暮らして予算をうんとえいちゃ!」こんな土佐弁メッセージボードを手に持って撮影しました。ほいたらね。

高知

高知 支部大会会場にフォトスポット 【高知市支部 柳井トモ子】6月14日、支部大会の会場に、会員手作りの写真撮影用のボードが設置されました。選択的夫婦別姓実現をテーマにしていますが、「米が高すぎ、まっことたまらんちゃ〜」「消費税減税 大事な事はしゃんしゃん決めてや」「夫婦別姓どればあ待ったらえいがあ」「全国大会に

長崎

長崎 初夏の「ふれあい展」 【諫早支部 黒田洋子】恒例の一大イベント「ふれあい展」を5月22、23日の2日間、市中央公民館で開きました。一階フロアには絵手紙、手仕事、習字、フラワーアレンジなどの作品を展示、別室では体験会も。見物客と体験者にぎわいました。



のべ160人が参加! 3人が入会▲長崎



手づくりのボード▲高知

2日目は午後、舞台発表と映像による小組紹介。チェアペルビス(エクササイズ)とフォークダンスには観客にも参加してもらい大いに盛り上がりしました。2日間で会員も含め延べ160人が参加し、3人が入会。その後も、小組体験希望の電話が相次いでいます。

農業と日本国憲法



岡山大学名誉教授、博士(農学) 小松泰信